

2011年度入学生用

総合情報学部

I 授業の履修について

II 学科教育
課程表
および
履修方法
について

総合情報学科

III 教職課程について

IV 語学セミナー・留学制度について

V 学籍および各種証明書について

VI 参 考

諸 注 意

- この『履修要覧』には、2011年度入学生に適用される内容を掲載しています。
- この『履修要覧』は、卒業時まで使用します。再配付しませんので、大切に使用・保管してください。
- 講義内容に関しては、「東洋大学Web情報システム」で公開しています。利用方法については、『東洋大学情報システム利用ガイドブック』を参照してください。
- 記載内容の変更については掲示にてお知らせします。

目 次

学部長のことば——総合情報学部長・大場善次郎	3
総合情報学部の目的と教育目標	4
I 授業の履修について	
1 学修にあたって	6
2 授業	8
3 履修登録	9
4 試験	10
5 成績評価	11
II 学科教育課程表および履修方法について	
1 総合情報学科紹介	16
2 卒業要件	17
3 学科教育課程表	17
III 教職課程について	
1 教育職員免許状取得について	22
2 教育実習	24
3 免許状の申請および教員採用について	26
IV 語学セミナー・留学制度について	27
V 学籍および各種証明書について	
1 学籍（学籍異動に関する手続）	36
2 各種証明書および実習料一覧	42
3 学則（学籍に関する事項の抜粋）	43
VI 参 考	
1 川越キャンパスの事務組織と業務（抜粋）	48



「理論と実践」で 学び教え合う場を醸成しよう

総合情報学部長 大場 善次郎

情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）は、人々の日常生活はもとより、あらゆる社会活動や経済活動には欠かせない社会インフラ（Infrastructure）の基盤となってきています。社会・経済活動の国際化が進む中、金融や製造業を始め、農林水産業、観光や交通機関、映像・コンテンツ制作、行政機関、病院や福祉センターなどの多くの分野で情報通信システムは利用されているが、21世紀の知識情報社会を先導する人材の不足は深刻な問題となっています。一方、産業界の強い要請もあり、文科省は「学士力向上」「キャリア形成」を教育プログラムに取り組むことをも求めています。

皆さんは、東洋大学の教育理念である「諸学の基礎は哲学にあり」に則り、自然科学、人文科学、社会科学、語学（特に英語）及び運動生理学等の教養科目を学んで、広い教養と高い見識を身につけ、「合理的なものの見方や考え方」で“もの”“こと”を処することができるようになって下さい。さらに、教養教育の基盤に立ち、情報システム科学・技術の専門基礎を修得し、総合情報教育科目の4つの体系である、高度な情報システムの開発・統合・構築、メディア系等での情報の収集・分析・編集・創造、環境・エネルギー的視点での企業活動・経営、人間心理に立脚した社会的活動等々の教育プログラムからキャリア形成や興味から多くを学び、ゼミやプラクティス（演習）でのグループ活動、課外講義・演習による資格取得の支援、知識の再確認の学習支援など多様なプログラムにも積極的に参画し、知識と実践力を養い、先導的な高度専門職業人を目指して下さい。

総合情報学部は“本質を見極める力、自律的な行動力、ソフトスキル力”を教育方針とし、川越キャンパスの設立理念でもある「産学協同教育」を実践しています。産業界の実態を知り、学問と社会での応用技術を結びつけ、自分なりに「理論と実践」を学び続ける習慣を身につけましょう。武蔵野の面影のある環境の中で、教職員・学生及び関係者と共に「学び教え合う場」を醸成し、皆さんと新しい歴史を刻みたいと思います。新しい教育研究分野の開拓は厳しいものがありますが、挑戦できる喜びと達成した時の充実感は表現し難いものがあります。

皆さんの積極的な参加を期待しています。

総合情報学部の目的と教育目標

目 的

文理の枠を越え、社会・経済・文化・芸術・環境・心理などの多様な分野で情報を的確に収集・編集・表現し、情報通信技術（ICT）が促す知識情報社会を先導する人材、「第一級の情報の創り手・使い手」を育成することを総合情報学部の目的としています。

教育目標

総合情報学部の教育の目標は、以下の能力を養うことにあります。

- (1) ICTの専門知識を問題解決に活用できる能力
- (2) 人間の営みを人文・社会科学的な見方で捉える能力
- (3) 情報科学的な見方で考える能力
- (4) 他者と有効にコミュニケーションと協業ができる能力
- (5) 科学・技術が現在ある所以を理解し、自律的に行動できる能力

本学部の研究の目的は、個々の人間・集団としての組織・とりまく環境の有機的相互作用によって知識情報社会の革新に貢献し、産業界と連携しつつ新たな総合情報学の知の拠点を確立することにあります。

カリキュラムの特色

総合情報学部では、教育目標を達成するために、以下の方針に沿って教育課程を編成しています。

- (1) 一般教養で文理双方の不足を補い、長所を伸ばします。人の営みを多面的に捉える能力を養い、哲学と歴史を学び物事の所以を理解できるようにします。
- (2) 自律的な行動力と学び続ける習慣を養い、学び教え合う場としてグループ活動を積極的に推進します。
- (3) コミュニケーション能力を伸ばすために英語と対話を重視し、共同作業における協調性と自主性を伸ばすためにプラクティスを各学年に配します。
- (4) 専門科目では共通する情報基礎科目群によりコンピュータの経験にかかわらず「情報の創り手・使い手」としての基礎を養います。
- (5) 4つの系「情報科学」、「メディア文化」、「環境情報」、「心理情報」に分類された専門科目群により文理を超えた多様な業種・職種に総合的に対応します。特に中心的に修得した専門科目分類系は修了に当って認定します。

I. 授業の履修について

1. 学修にあたって

・学 期

本学部では Semester 制を採用しています。Semester 制では1年を2つの学期（Semester）に分け、4年間は8つの Semester に分けられます。各学期（Semester）単位で授業が完結し、補講期間と定期試験を含みます。

本学では、各学期（Semester）を

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年の3月31日まで

と分けています。

※ただし、授業開始日は年度によって異なりますので、学生生活ハンドブックで確認してください。

1 学年	第 1 セメスター
	第 2 セメスター
2 学年	第 3 セメスター
	第 4 セメスター
3 学年	第 5 セメスター
	第 6 セメスター
4 学年	第 7 セメスター
	第 8 セメスター

・ 修業年限と在学年数

修業年限は4年（8 Semester）です。

在学年数は、通算して8年（16 Semester）が限度となります。

なお、休学期間は在学年数に算入しません。

・ 単位制

科目の履修にあたり単位制を採用しています。単位制とは、単位数によって卒業要件が定められる制度です。単位は、履修した科目に対して一定の合格基準（科目の単位数に見合う授業時間および試験での成績）を満たすことにより与えられます。

本学の授業時間は**90分を1コマ**として各 Semester に15回実施されます。講義は1コマで2単位、実験・演習・実習・実技は1コマで1単位となります。

なお、講義の場合は予習と復習にそれぞれ90分、実験演習系科目の場合は予習または復習のいずれかに90分が必要ということになります。予習や復習の時間を考慮し、履修科目の適切な学修時間を確保するために、1 Semester あたりの履修登録単位数は**24単位を上限**としています。ただし、教職科目には例外があります。

なお、履修科目の単位修得には、授業回数の**3分の2以上の出席**が条件となっています。

種 別	単 位 数
講義科目	1 コマで 2 単位
実験・演習・実習・実技科目	1 コマで 1 単位

- ・ 必修科目
- ・ 選択必修科目
- ・ 選択科目

科目には、履修の重要度に応じて、

- ・ 必修科目
- ・ 選択必修科目
- ・ 選択科目

という区分があります。

必修科目とは、必ず修得しなければならない科目です。

	<p>選択必修科目とは、指定された科目群の中から指定された単位数以上の修得を必要とする科目です。ここに指定された科目は優先的に履修してください。</p> <p>選択科目とは、幅広い知識を吸収して、個人の進路に応じた適切な講義内容を選択して履修できる科目です。</p>
<p>・ 科目の配当学年</p>	<p>それぞれの科目は、どの学年で履修すべきかが定められています。これを配当学年といいます。配当学年が自分の学年よりも上の科目を履修することはできません。配当学年が自分の学年よりも下の科目は履修することができます。</p>
<p>・ 履修条件</p>	<p>(1) 教育課程表 入学年度の所属学科の教育課程表（カリキュラム）が卒業まで適用されます。入学時の教育課程表に存在しない科目は履修できません。4年を超えて在籍した後にカリキュラム変更になった場合には、その新旧科目対応表を参照して必要な科目の対応科目を履修してください。</p> <p>(2) 科目名称 科目名の後に付く記号のうち、「Ⅰ・Ⅱ」は望ましい履修順序を示し、「A・B」は内容分野の違いを示しています。</p> <p>(3) 履修単位数制限 1セメスターに履修登録できる単位数は、24単位以内です。ただし卒業単位として認定されない教職課程の科目についてはこの制約対象外です。</p> <p>(4) 再履修 単位修得できなかった科目は、再度履修登録することができます（このことを再履修といいます）。また、単位修得した科目は、再度履修登録することはできません。</p> <p>(5) クラス指定 クラス指定された科目はその指示に従って履修登録しなければなりません。再履修の場合は、下の学年の同じクラスを履修することを基本とします。ただし、必修科目や選択必修科目が時間割上重複する場合に限り、指定クラス外履修申請を提出することで、指定されたクラス以外の科目を履修することができます。</p> <p>(6) 他学部科目の聴講 他学部の専門科目は、12単位を上限として卒業単位に認められます。履修登録を希望する場合には、教学課に問い合わせてください。ただしこの単位数は、1セメスターの履修登録単位数制限（24単位）の中に含まれますので、自学科に必要な科目の履修を優先したうえで、十分考慮して履修してください。</p> <p>(7) 教職課程 「教職に関する科目」、および教育課程表にない「教科に関する科目」については、卒業に必要な単位として認められません。これらの科目は登録できる単位数制限（24単位）の対象外となります。</p> <p>(8) 集中授業 集中授業については、授業に参加する学期に履修登録してください。ただし卒業直前の学期には履修登録できません。</p> <p>(9) 卒業関係科目 卒業関係科目（卒業研究Ⅰ・Ⅱ、卒業制作Ⅰ・Ⅱ）は同一学期中にⅠ・Ⅱを同時履修することはできません。</p>
<p>・ 学士の学位授与</p>	<p>卒業要件を満たし、修業年限を経過した者には、学士（情報学）の学位が授与されます。</p>

2. 授業

・授業時間

授業科目は、春学期または秋学期のいずれかに開講されますが、春秋両学期に開講される科目もあります。

授業時間は90分を1時限とし、以下の表の通り1日5時限分を開講します。

時 限	時 間
1 時限	9：00 ～ 10：30
2 時限	10：40 ～ 12：10
昼休み	12：10 ～ 13：10
3 時限	13：10 ～ 14：40
4 時限	14：50 ～ 16：20
5 時限	16：30 ～ 18：00

授業科目によっては、連続した複数の時間帯に開講する科目もあります。また、同じ科目を週2回以上開講する科目もあります。

・休講

教員のやむを得ない理由（学会出張等）により授業を休講にすることがあります。

休講情報は、4号館あるいは総合情報学部の掲示板（以下、掲示板）に掲示します。また、東洋大学Web情報システムでも確認することができます。電話での問い合わせには一切応じません。

なお、休講の指示がなく、授業開始時刻を30分以上経過しても授業が開始されない場合は、教学課の担当窓口へ連絡の上、指示を受けてください。

・補講

次のような場合で、補講を実施するときは、その内容を4号館掲示板に掲示します。

- ① 授業が休講になった場合
- ② その他の理由で補講・集中講義を必要とする場合

なお、補講は原則として各学期末の補講期間に行いますが、それ以外の日に実施することもありますので、担当教員の指示に従ってください。

・欠席

やむを得ない事由により、授業に欠席した場合は、次の授業時に担当教員へ欠席届を提出してください。欠席届は教学課窓口で配付します。

なお、病気・怪我等で長期欠席することが予想される場合は、事前に教学課に相談してください。

また、教育実習により欠席する場合は、説明会時に配付する用紙を担当教員に届け出てください（Ⅲ・教職課程についての章を参照）。

・交通機関がストップしている場合の授業の取扱いについて

『学生生活ハンドブック』にて確認してください。

・掲示板

学生への連絡事項や休講情報を4号館掲示板・1号館学科掲示板ならびに東洋大学Web情報システムに掲示しますので、各自で確認してください。

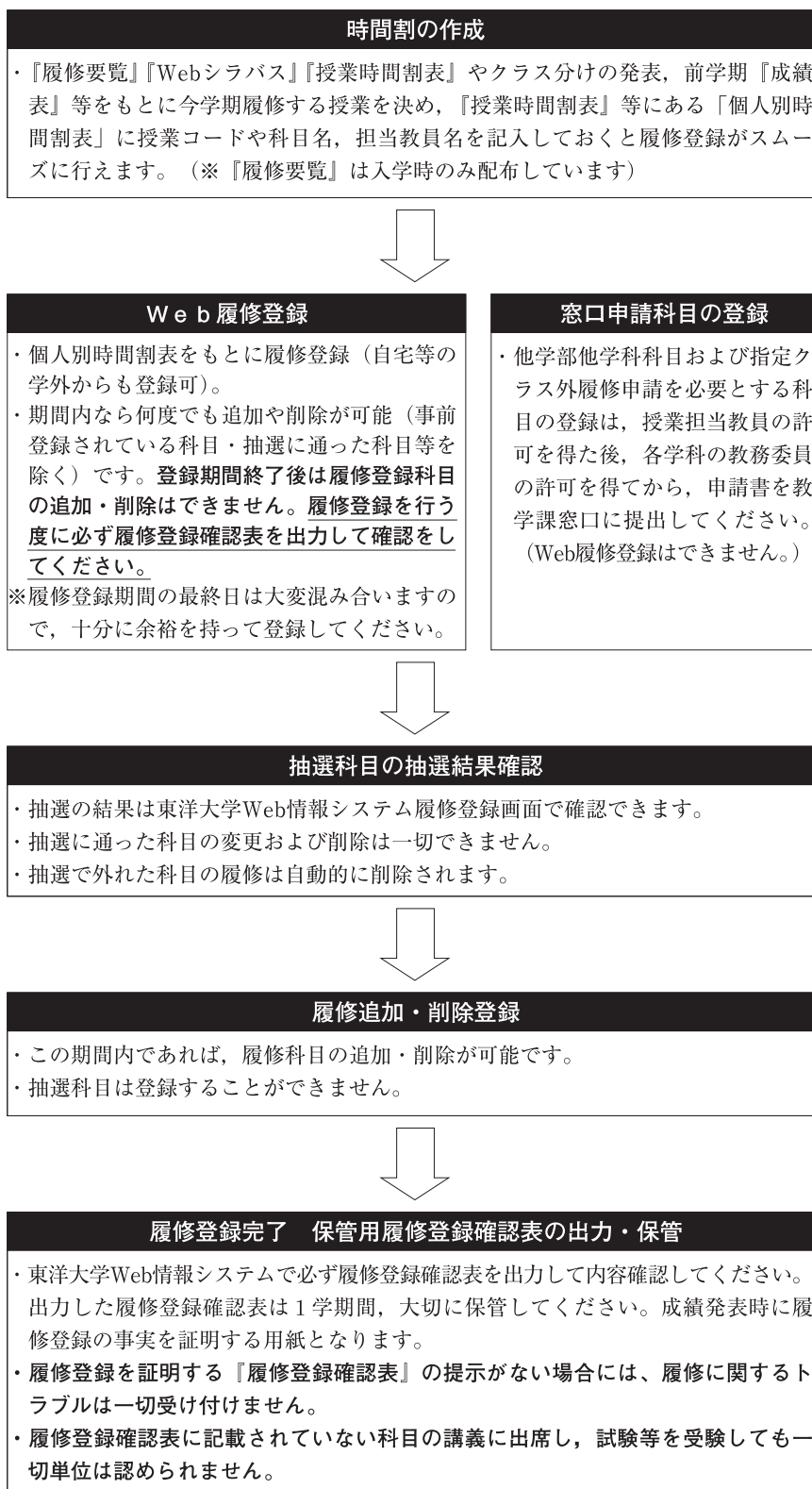
また、総合情報学部学生サポートweb (<http://team-6.eng.toyo.ac.jp/isa>) にも必要な情報を掲載しますので、確認してください。

3. 履修登録

・履修登録の流れ

履修登録は、春学期の開始時と秋学期の開始時の年2回、東洋大学Web情報システムを利用して行います。詳細については『東洋大学情報システム利用ガイドブック』を参照してください。

《履修登録の流れ》



4. 試験

- ・試験の種類
履修した科目の単位を修得するには、授業回数の3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。
この成績評価を行うための試験は、筆記（レポートを含む）または口頭により行います。
 - ① 定期試験（学期末試験）
 - ② 平常試験
- ・定期試験(学期末試験)
定期試験は各学期末の一定の期間（春学期7月下旬～8月上旬，秋学期1月下旬～2月上旬）に行います。定期試験は定期試験時間割に従って実施されます。平常時の時間割と異なりますので注意してください。
- ・平常試験
平常試験は担当教員の指示において平常の授業時間帯に随時行う試験です。
- ・試験の受験資格
次のいずれかに該当するときは、試験を受験できません。
 - ① 該当科目の履修登録をしていないとき
 - ② 学生証を携帯していないとき
 - ③ 休学及び停学中のとき
 - ④ 試験開始後20分を経過したとき
- ・試験日の発表
試験の日時，場所，方法等は以下のように発表します。
 - ① 定期試験は，試験開始の約1週間前に，定期試験時間割を東洋大学web情報システムに掲示しますので各自で確認してください。
 - ② 平常試験は，担当教員が指示します。
- ・定期試験当日の注意事項
受験にあたっては以下のことに注意してください。
 - ① 試験時間は50分です。試験開始後20分を過ぎても試験会場に入室していない場合は受験資格を失います。また，試験開始後25分を過ぎないと退場できません。中途退場した場合，再入場は認めません。
 - ② 受験の際，学生証を表（写真側）にして机の上に置いてください。万一，学生証を忘れた場合には，教学課で「仮学生証」の交付を受けてから受験してください。
 - ③ 試験場は試験時間割で指定します。
 - ④ 試験場では，監督者の指示に従ってください。
 - ⑤ 答案用紙に黒のペンまたはボールペンで学籍番号・氏名を必ず記入してください。なお，一方でも記入のない答案は無効となります。
 - ⑥ 試験会場への持ち込みが許可されているものであっても，学生間での貸し借りは不正行為とみなします。
 - ⑦ 試験場では，携帯電話，PHS等の通信機能を持つ電子機器を机上に置かないこと。また机上に置かない場合でも，試験の妨げとならないよう電源を必ず切っておくこと。また，時計代わりの使用も禁じます。
 - ⑧ 試験場への飲食物の持ち込みを禁止します。
 - ⑨ 病気，天災，その他やむを得ない理由によって試験を受けられなかった場合，1週間以内に診断書（コピー可）または証明書等を添えて教学課窓口で所定の手続をしてください。
- ・不正行為の処分
試験場において，試験監督者の指示に従わないなどの不正な行為があったときには，退室を命じ，学則（第57条）に基づき処分されます（『学生生活ハンドブック』参照）。

5. 成績評価

・ 単位の認定

- ① 単位は、試験やレポート等の結果による成績評価に基づいて認定されます。なお、単位認定されるためには、履修登録した科目の授業に3分の2以上出席しなければなりません。
- ② 履修登録した科目についてのみ成績評価されます。履修登録のない科目を単位認定することはできません。

・ 成績の評価

成績評価基準は、原則として以下のガイドライン（東洋大学成績評価基準）に則って行います。

各科目の評価基準については、講義内容（シラバス）を参照してください。試験の成績は、100点満点の60点以上を合格とし、それ未満は不合格となります。

合否	成績表示	点数	基準
合格	S	100～90	到達目標の各項目を優秀な成果により達成している。
	A	89～80	到達目標の各項目を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標の各項目を達成している。
	C	69～60	到達目標の各項目を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席、試験、レポート等の評価要件を欠格している。

・ TOEICスコアによる
単位認定

TOEICスコアによる単位認定

認定対象科目	認定評価	TOEICスコア	認定可能単位数
Remedial English I	S	450点以上	2科目2単位
	A	400点以上	
Remedial English II	S	550点以上	
	A	500点以上	

申請から認定まで

- ① 申請日から遡って過去1年以内実施された、TOEIC公開テスト、または東洋大学で実施のTOEIC IPテストを対象とします。
- ② 履修登録期間内に単位認定のための申請手続き、および単位認定対象科目の履修登録を行ってください。
- ③ 申請手続きには、申請用紙とTOEIC Official Score Certificate(公式認定証)、または本学主催のTOEIC IPテストのスコアレポート（いずれもコピー不可）を提出してください。
- ④ 申請した科目の授業終了後、成績発表とともに単位が認定されます。提出されたスコアレポート（本証）は単位認定後返却します。

・ 語学セミナーによる
単位認定

本学で実施している「語学セミナー」（英語・中国語）に参加し、条件を満たすことにより以下の科目を認定します。

「英語と文化」「中国語と文化」

※セミナーの詳細については、「IV語学セミナー・留学制度について」を参照してください。

・成績の発表

春学期は9月、秋学期は3月にそれぞれそれまでの実績に追加する形で成績表を交付します。成績表は再交付しませんので次学期まで大切に保管してください。

・成績に関する問合せ
(成績調査)

履修登録し、受講・受験したにもかかわらず成績表に評価が記載されていない場合や*印が記載されている場合は、「成績表」「履修登録確認表」を持参のうえ、成績調査受付期間中に教学課で所定の手続きをすることで評価について問い合わせをすることができます。

成績の問い合わせができる期間は、当該セメスター内だけです。担当教員に問い合わせができない場合には教学課に問い合わせてください。

なお、電話での問い合わせや手続きはできません。

・学修指導

学修指導として、専任教員が学生への指導及び保証人への連絡を行う場合があります。

・卒業再試験

卒業当該学期において、卒業単位が不足する学生を対象とし、卒業再試験を実施します。再試験の受験資格、対象科目については「総合情報学部卒業再試験実施に関わる内規」に基づき実施されます。

総合情報学部卒業再試験実施に関わる内規

(目的)

1. この内規は、不受験者および単位不足者の取り扱いに関する規程2条に基づき、総合情報学部の単位不足者に対する卒業再試験に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(受験資格)

2. 4年次生で、卒業を希望するものであり、卒業に必要な単位数に6単位以内の不足であり、かつ、3科目以内であるものとする。

(対象科目)

3. 卒業再試験の対象となる科目は以下のすべての条件に該当する科目とする。
 - ① 原則として卒業当該学期に履修登録を行っている科目であること
 - ② 単位充足者発表時の評価で「D」の評価を得た科目であること

(対象除外科目)

4. 以下の科目は卒業再試験の対象科目から除外する。
 - ① 演習、実習、実験、実技、プラクティス関係科目
 - ② 卒業研究、卒業制作
 - ③ 産学連携科目
 - ④ 不正行為等により無効となった科目
 - ⑤ 通常の評価において「E」「*(評価不能)」と判定された科目
 - ⑥ 他学部と合同で開講し、当該学部で再試験を除外された科目
 - ⑦ 科目の性質上、担当教員と学部長が協議して卒業再試験にふさわしくないと判断した科目。ただし、その科目にあっては学生の履修登録以前に卒業再試験を実施しないことを学生に対して明示するものとする。

(再試験手続き)

5. 再試験は、卒業当該学期で発表される単位充足者発表時に、定められた時間内に面接を受けた上で所定の手続きを行うものとする。

- ① 再試験手続きを行わなかった場合は、自動的に受験する権利は消滅する。
- ② 受験しようとする者は、卒業再試験対象科目であり、かつ卒業再試験を行う科目の中から、卒業に不足する単位数分の科目数のみ受験することができる。
- ③ 他学部開講科目を受験する場合は、当該学部の卒業再試験の規定に従うものとする。
- ④ 代理人での手続きは認めない。

(再試験受験料)

6. 再試験受験料は以下の通りとする。
1科目 5,000円

(再試験の評価)

7. 卒業再試験の成績評価は以下の通りとする。
- ① 成績評価基準は、それぞれの科目において定期試験で実施した基準と同等とする。
 - ② 再試験の結果、合格した者の成績評価の上限は「C」評価とする。

附 則

- ① この内規は、平成21年4月1日から施行する。
- ② この内規は、同学年に在学するものから適用する。
- ③ この内規は、教育体制の変更に伴い、その都度見直すものとする。

Ⅱ. 学科教育課程表および履修方法について

1. 総合情報学科紹介

総合情報学科へようこそ！

総合情報学部総合情報学科は、「第一級の情報の創り手・使い手」こそ、現代に求められる人材であると考えています。情報を構造的に扱う理系の知恵と、情報を意味的に扱う文系の知恵を共に持つこと、そしてICTを利活用しながら人が受け取る価値を高めることのできることを、これらを第一級の情報の創り手・使い手の条件ととらえています。

私たちに求められるのは、思考力と判断力を基にして質の高い情報と正しいICTの利活用によって、より安全で利便性の高い共生社会の創造にむけて共感し、協業してゆくことなのです。

この共生社会の創造を先導できるのが、総合情報学部の卒業生です。現場で正確な情報をどのように収集するか、得られた情報をどのように処理するか、編集した情報をどのように伝達するか、これら一連のプロセスをICTの基礎技術とともに理解し実践できること、身につけた第一級の能力が、その裏付けとなるのです。

総合情報学科の学びの特徴を紹介します。

- 1) 哲学を基盤にもつ東洋大学の伝統に基づいた一般教養科目を用意しています。豊かな人間性とフィロソフィーの素養を高めてください。
- 2) 初年次の導入段階は、情報を取り扱う基礎的な作法や知識（リテラシー）、社会における情報活用の広さを学ぶ期間です。情報科学のコンセプトとコミュニケーション能力、幅広いICTの利活用の基礎を身につけてください。
- 3) 2・3年次の中間段階では、専門科目の4つの系の科目群から、教員のアドバイスを将来のキャリアプランに基づいて選択履修します。ICTの応用に関する知識と、情報を的確に収集、蓄積、分析、編集、表現する力を深めてください。
- 4) 4年次は、修得してきた能力を応用する段階です。社会の求める課題に即して卒業研究や卒業制作などのプロジェクトに取り組んでください。
- 5) 講義や演習は、企業の方々も講師としてお招きし、教員と一体となって実施します。情報を利活用する社会経済活動の実態を修得してください。
- 6) 文章作成力の向上講座、TOEICのスコアアップ講座、情報処理技術者試験の対策講座など、学士力と就業力を伸ばす課外講座を用意します。積極的に取り組んでください。
- 7) 企業等との連携を基に、総合情報学に関わる研究を各教員は進め、その成果を教育内容にも反映してゆきます。最先端の学問に取り組んでください。
- 8) 4年間を通して、教員や学生間の「教え学びあい」のグループ学習の場を授業や演習、ゼミナールなどの課程内教育はもちろん、課外においても用意します。総合情報学科での「教え学びあい」の活動を、将来に向けて十二分に活かしてください。

2. 卒業要件

区 分			総合情報学部 総合情報学科 卒業要件
一般教養科目 16単位以上	人間探究分野	自 然	
		人 文	
		社 会	
		総 合	
	ウ エ ル ネ ス		2単位以上
	文化間コミュニケーション分野		
	留 学 支 援 科 目		
人 間 形 成 分 野			
小 計		16単位以上	
専門科目 92単位以上	必 修 科 目		26単位
	選 択 必 修 科 目		4単位以上
	選 択 科 目		
	小 計		92単位以上
他 学 部 他 学 科 聴 講 科 目			
卒 業 必 要 単 位 数 合 計			124単位以上

- ・履修単位数
- ・履修上の注意

各学期に履修できる単位数の上限は24単位までです。ただし、卒業に必要な単位として認められない科目（すなわち教職課程の科目）については制限がありません。

また、既に単位を修得した科目は履修できません。

履修の際は、以下の点に注意してください。

- ① 総合情報プラクティスなどローマ数字が続く科目は、配当されている学年で番号順に履修しなければなりません。ただし、修得できなかった場合は、在学する学年より下の学年に配当されている科目は、番号順にかかわらず履修・修得することができます。
- ② 総合情報プラクティスのコース分けは、成績順位に従って希望を優先します。
- ③ 総合情報プラクティスV・VIを3年次の各セメスタに履修してください。
(履修しなければ4年間で卒業できないことが決定します)

・ 課程表の見方 (課程表を抜粋)

	配当学年	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
		授業科目	授業科目	授業科目	授業科目
必 修 (26)		総合情報学概論(2)	総合情報プラクティスⅢ(2)	総合情報プラクティスⅤ(2)	総合情報プラクティスⅦ(2)
		入門プログラミング(2)	総合情報プラクティスⅣ(2)	総合情報プラクティスⅥ(2)	総合情報プラクティスⅧ(2)
選 択	共通	自然生態学の基礎(2)			
	情報科学系		プログラミング技法Ⅰ(2)	プログラミング技法Ⅱ(2)	
		A	B		

A欄に記載されている科目については、第1年次に履修することが可能な科目です。(1年次に履修・修得していることが望ましい科目です)
ただし、履修して修得できなかった場合、あるいは選択科目で履修しなかった場合は、2・3・4年次に履修・修得することが可能です。
B欄のように、第2年次～第4年次欄に記載されている科目については、2年次から履修することが可能な科目となります。(1年次では履修できませんが、2・3・4年次に履修可能です)
4年次になれば、条件を満たさなければ履修できない科目を除き、課程表にある修得していない科目は全て履修可能となります。
横実線は科目の区分けを意味し、横点線は上下間で履修の制限がないことを示します。

3. 学科教育課程表

総合情報学部総合情報学科の教育課程表を次ページから掲載します。

総合情報学科教育課程表(2011年度入学生用) — 一般教養科目・専門科目(必修・選択必修科目) —

区分		配当学年	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	
			授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目	
一 般 教 養 科 目	人間 探 究 分 野	自 然	科学史(2) 生物学の基礎(2)	環境科学(2)	物理学の基礎(2)	化学の基礎(2)	
		人 文	哲学(2) 美術史(2)	文学(2)	倫理学(2)	歴史学(2)	
		社 会	経済学の基礎(2) 社会学の基礎(2)	法学の基礎(2) マーケティングの基礎(2)	日本国憲法(2)	政治学の基礎(2)	
		総 合	総合 A(2) 総合 E(2) 総合ゼミナール A(1) 総合ゼミナール E(1) 全学総合 I A(2)	総合 B(2) 総合 F(2) 総合ゼミナール B(1) 総合ゼミナール F(1) 全学総合 I B(2)	総合 C(2) 総合ゼミナール C(1) 全学総合 II A(2)	総合 D(2) 総合ゼミナール D(1) 全学総合 II B(2)	
	(16)	ウェルネス(2)	必修	ウェルネス A(1)			
			選択		ウェルネス B(1)		
		文化間コミュニケーション分野	英語と文化(2)	ドイツ語と文化(2)	フランス語と文化(2)	中国語と文化(2)	
		留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4)		Special Course in Advanced TOEFL II(4)	
		人間形成分野	キャリア形成(2)			学外実習 I(2)	学外実習 II(2)
	専 門 科 目	必 修 (26)	総合情報学概論(2) 入門プログラミング(2) 総合情報プラクティス I(2) 総合情報プラクティス II(2) Integrated Practical English I(1) Integrated Practical English II(1) English for TOEIC I(1) English Presentation I(1)	総合情報プラクティス III(2) 総合情報プラクティス IV(2) English for TOEIC II(1) English Presentation II(1)	総合情報プラクティス V(2) 総合情報プラクティス VI(2)	総合情報プラクティス VII(2) 総合情報プラクティス VIII(2)	
選 択 必 修 (4)					Technical Reading(1) Technical Writing(1) English for Specific Purposes (ESP) I(1) English for Specific Purposes (ESP) II(1) Technical Communication (Academic Course)(1) Technical Communication (Business Course)(1) Remedial English I(1) Remedial English II(1)		

総合情報学科教育課程表（2011年度入学生用）

—専門科目（選択科目）—

課
程
表

区分		配当学年	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
			授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
専 門 科 目 (92)	選 択	共 通	総合情報学ショーケース(2) 総合情報学の基礎A (数学)(2) 総合情報学の基礎B (科学)(2) 総合情報学の基礎C (心理学と情報)(2) 確率統計(2) 情報数学(2) 基礎数学A(2) 基礎数学B(2) ネットワーク通信入門(2) 応用コミュニケーション(2) 情報倫理(2) 地球環境学の基礎(2) 自然生態学の基礎(2)			卒業研究Ⅰ(6) 卒業研究Ⅱ(6) 卒業制作Ⅰ(6) 卒業制作Ⅱ(6)
		情報科学系		プログラミング技法Ⅰ(2) アルゴリズムの基礎(2) コンピュータアーキテクチャ(2) ネットワークコンピューティング(2) プログラミング言語論(2) 人工知能(2) データベース(2) ソフトウェア工学Ⅰ(2) 情報システム管理(2) CGの理論と実践(2)	プログラミング技法Ⅱ(2) オートマトン(2) オペレーティングシステム(2) 情報セキュリティ(2) 信号処理(2) パターン認識(2) ソフトウェア工学Ⅱ(2) プロジェクト管理(2) 画像処理の理論と実践(2)	
		メディア文化系		芸術論(2) 文化論(2) 映像学(2) ファンタジー論(2) ゲームの歴史(2) アニメーション文化論(2) 情報メディア論(2) デジタルデザイン(2)	感性学(2) コンテンツ作成技法(2) サイエンスとアート(2) コンテンツ作成のためのCG(2) コンテンツ作成のための画像処理(2) メディア表現論(2) ネットワーク社会論(2) マルチメディアシミュレーション(2) 技術文化史(2)	
		環境情報系		エコデザイン論(2) 都市エネルギー情報論(2) 環境ビジネス論(2) サービスサイエンス(2) ビジネスアーキテクチャ(2) 環境会計学(2) 社会マーケティング論(2) 地理情報論(2)	環境コミュニケーション論(2) 環境マネジメント論(2) 環境イノベーション論(2) 都市情報論(2) ビジネス情報論(2) 企業マネジメント情報論(2) 経営環境モニタリング(2) エコロジー情報論(2)	
		心理情報系		入門心理統計学(2) 異文化間コミュニケーション(2) 社会調査法(2) 産業・組織心理学(2) 実験計画法(2) ヒューマンインタフェース(2) 健康心理学(2)	応用心理統計学(2) 臨床心理学(2) 人間環境デザイン心理学(2) 産業カウンセリング概論(2) 実験心理学(2) 認知心理学(2) スポーツ心理学(2)	

区分		配当学年	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
			授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
教 職 科 目 (卒業単位外)	情 報		情報化社会と倫理(2) 情報処理基礎(2)	情報化社会と職業(2)		

